

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成21年 1月31日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時30分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 三和苑 (熊本県)
評価調査員の氏名	氏 名 淵上 一光 氏 名 下田 政信
事業所側対応者	職 名 管理者、介護職員 氏 名 橋本真由美、山下貴子 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4390100453
法人名	社会福祉法人 真光会
事業所名	グループホーム 三和苑
所在地	熊本県熊本市城山下代3丁目6番2号 (電話) 096-329-3317
評価機関名	特定非営利活動法人 PRENET21
所在地	熊本市八幡9-6-51
訪問調査日	平成21年 1月31日

【情報提供票より】(20年12月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算	7.8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 昼食代に含む
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低 71歳	最高 92歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三和クリニック、翼八口ー歯科診療所
---------	-------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本市の西部に位置しており、車を少し走らせれば、そこは熊本の物流の拠点、熊本新港、はたまた熊本の食の台所、田崎市場も近くにあるという大変分かり易い場所にあります。隣接には、少年達がスポーツを楽しむグラウンドもあり、そこには利用者の方々に職員が寄り添って散歩を楽しむ光景がありました。

##

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	事業所は地元の人々とのより親密な交流を図り、認知症の正しい理解、及びグループホームの社会の中での役割を広く知ってもらうことを目標に、年間を通して活動し、その結果として月1回の清掃活動への参加と取り組みが広がっています。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、改善点や職員のスキルアップのために、個人個人に目標管理シートを作成し、より上のレベルを目指して努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは老人会会員、民生委員、法人から施設長等で構成されている。基本的な認知症の特徴等の勉強会、法律の改正時における改正点、また利用者のケース等を紹介したりして意見交換を行なっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	高齢に伴い、ADL低下も顕著になってきており、利用者の状況の把握もよりきめ細かなものが求められているように思います。家族への定期的な報告と同時にコミュニケーション作りも大事にしてください。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	清掃活動に参加したりするなど、事業所と地域住民の方々との交流窓口はより確かなものになって来ていると思います。今後はこの窓口を多方面へも向けて、地域の行事により積極的に参加し、グループホームが社会の中に一刻も早く融和できるように頑張りたいと思います。

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人全体としての基本理念「3つの和」を掲げ、さらに事業所独自で介護サービスの基本方針を作り上げ、実践に向けた取り組みを行なっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は玄関ホールの見やすい場所に掲示している。就業時には必ず目を通すようにしている。またミーティングでは、交代で復唱し、意識付けを行なっている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	4月～12月は利用者と共に地域の清掃活動に参加している。またデイサービス等で、地域の人との交流を図っている。		清掃活動以外にも機会をとらえ、地域活動に参加し、地元の人々との交流を深めてください。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	理解している。評価を実施することにより課題や目標を明確にし、改善できるところは改善し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、2ヶ月に1回行なっている。参加者は老人会会員、民生委員、法人側から施設長等で構成されている。認知症等の勉強会や利用者のケースを紹介したりして意見交換を行なっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	グループホーム連絡協議会において市の担当者より現状報告や指導が行なわれている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告	体調変化がある場合は、その都度速やかな連絡を行なっている。また、2ヶ月毎に広報誌や毎月領収書を家族宛に郵送し、報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
8	15	運営に関する家族等意見の反映	家族会が組織されており、意見交換も行なわれている。玄関には意見投書箱が置かれていたり、第三者相談窓口も掲示されている。意見を運営に反映させる体制が出来ている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
9	18	職員の異動等による影響への配慮	グループホームという事情を鑑み、管理者を中心に移動や離職を必要最小限にとどめられるような取り組みを行なっている。やむを得ない異動に関しては、早め早めの対応を心掛けている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み	採用時の初期研修及び毎月1回行なわれる法人内研修と独自のカリキュラムで、職員のスキルアップを目指している。また外部研修にも交替で参加し、ミーティングで発表するようにしている。		年度ごとに目標を設定して、その取り組みの進捗状況を法人内研修会で発表するようにしている。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
11	20	同業者との交流を通じた向上	法人内に3ヶ所のグループホームがあり、合同で勉強会を年3回行なっている。また包括支援センターの指導のもと他グループホームとの交流も定期的に行い、サービスの向上に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得して入居出来る様に必要な場合は、2～3日のお試し利用期間を設けている。今までのところ、お試し利用後は全ての利用者が入居しておられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の人格や思いを尊重しながら、その日の体調にもよるが、洗濯物たたみや茶碗拭き、また散歩の際の車椅子押しなど役割りを果たした充実感を味わってもらえるような支援をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方の希望・意向について分かった事は表にして、全職員が理解できるようにしている。また新しく分かったことは追加していくようにしている。		随分時間が経ってこの利用者は若い頃ダンスが好きだったということが分かったということも伺いました。利用者の得意分野を引き出し、生きがい探しのアンテナを目一杯頑張らせて欲しいと思います。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々職員が行なっている利用者へのサービスと介護計画がかけ離れたものにならないように注意している。家族からの意見、必要な場合は主治医や看護師の意見も反映されている。		利用者本位の介護計画となるためには、まず十分なアセスメントが出来なければならないと思います。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランをもとに、より質の高いサービスを目指して本人の状況や思いをいち早く察知できるように、担当者制を導入している。今後は現状に即した精度の高いケアプランが期待できると思う。		より現状に即した質の高いサービスを目標にしているので、モニタリングの充実を希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別ケアに重点を置き、その人らしさを引き出し、生かすような支援に取り組んでいる。個別の散歩・洗濯物干しや取り入れ、また洗濯物たたみ等、体調に合わせた充実感を感じて貰うような支援を心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望をまず第一に考え、受診支援を行なっている。隣に協力医があり、何かあるとすぐかけつけてもらえるので、利用者・家族からは安心してもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として重度化や終末期に向けた方針を作り上げている。家族に説明し、同意書を取り交わしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇りや尊厳を損ねることがないように言葉使いや接し方には十分注意を払っている。また個人記録等の取り扱いについても細心の注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等の基本的な一日のスケジュールを除いては一人一人のペースを大切に、その人の好み・希望を最優先した日々のその人らしい暮らしになるような支援を心掛けている。		高齢化や認知症の進行とともに対応の難しさも増えてくると考えられます。職員のスキルアップが、より質の高い介護を目指す為には欠かせないと思います。取り組みを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援	食事の時のバックグラウンドミュージックが大変心地よかったです。出来るだけ好物をとり入れたメニュー作りを工夫したり、その人に合わせた大きさにカットしたりと食事が進む配慮をしている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
23	57	入浴を楽しむことができる支援	2日に1回の割合で入浴出来、一人一人の希望やタイミングに合わせてマンツーマンで支援している。ただし、夜間の入浴は行っていない。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにお手伝い等、役割を果たした充実感、楽しむことが出来た満足感を十分感じてもらえるような支援を心掛けている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
25	61	日常的な外出支援	天気の良い日には、グループごとに外出するようにしている。その際、元気のよい利用者には車椅子を押していただくこともある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践	日中、玄関の施錠は行なわない。全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、徘徊癖のある利用者に対する対応も十分取られている。もちろん夜間は防犯上、施錠している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
27	71	災害対策	消防訓練を年2回行なっている。その内1回は夜間を想定したものにしている。訓練には、地域の方、民生委員にも参加してもらっている。		とくに夜間における緊急避難の場合は、近隣の協力が欠かせないと思います。日頃より、地域の人々の協力が得られるような取り組みに力を入れてください。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援	食事の摂取量、水分量の確保については、必ずチェックを行なうようにしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり	ホールの天井は吹き抜けになっており、ほどよい陽光を取り入れることが出来るように設計されている。また色紙等で飾りつけも行なわれ、居心地よく過ごせるような工夫もされている。		車椅子の利用者もおられ、またこれからは増えることも考えられます。トイレの広さが少し気になりました。
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には慣れ親しんだ調度品や日用品を持ち込んで居心地よく過ごせるような支援を行なっている。また、収納ボックス等は高く積み上げずに、利用者本人が出し入れできるように工夫している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。


チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム三和苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本市城山3丁目6番2号
記入者名 (管理者)	橋本真由美
記入日	平成 20 年 12 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		広報誌「グループホーム三和苑便り」を地域のリーダーに配布しホームの内容の理解・普及に努める。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		清掃活動だけでなく、他の行事にも参加しグループホームをアピールしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センター、又地域の方が協賛している講演会や研修会に参加し、機会あるごとに当事業所の内容を紹介し、認知症を理解してもらえるように取り組んでいる。又、地域包括支援センターのネットワーク作りに協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理解し、改善できるところは改善し、努力している。例えばサービスの提供にあたり、個別対応できるよう目標を明確にし、実施、評価することで、今後の課題につなげるように取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一回行い、情報提供し、その会議において評価を得ている。例えば利用者のケースを紹介し、認知症についてメンバーの方々に意見をいただき、グループホーム会議で話し合いの場を設け質の向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在、市の担当者の参加はない。市の連絡協議会の中で担当者より現況や指導を受けている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	連絡協議会に参加し、権利擁護に関する制度を理解したり、地域包括支援センターの担当者より指導を受けている。必要な方には窓口を紹介している。権利擁護に関する研修会で学んできたことの職員への伝達や運営推進会議での報告なども行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議内容に取り入れ、学習している。又、現場でも日頃から何がどういふ言動が虐待にあたるか等について、職員で話し合っ注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に当たっては、契約書や重要事項説明書を読み上げたり、補足説明をしたり、遠慮のない質問を受けたりした上で、署名、捺印にて同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>問題が発生した場合には、第三者苦情受付窓口を準備し対応している。介護相談専門員が毎月訪問し、面会により利用者の意見が反映されている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>心身の異常がある場合は、随時連絡を行う。又、広報紙や領収書等を家族へ郵送している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>行事のたびごとに家族との意見交換を行い、家族からの意見をホームの運営や介護サービスに生かすようにしている。第三者相談窓口も委嘱し掲示している。窓口は管理者が担当している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営規程をもとに目的や方針をミーティング等で話し合い、職員間で意見交換を行い改善する点は改善している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表の調整を行い、利用者や家族の状況の変化に柔軟に対応できるようにしている。緊急時には、迅速に対応するように努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者を中心に異動や離職必要最小限度をとどめるように、日常から職員間の意思の疎通を図り、やむを得ない異動に関しては早め早めに時間をかけて対応し、利用者へのダメージを防ぐようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内研修参加等により、研鑽に努めるようにすすめている。又、外部研修にも参加し、他の職員にも情報を提供するため、会議の時に発表の場を設けている。</p>	<p>年度ごとに研究テーマを設け、テーマに沿った取り組みをし、中間発表及び最終発表を法人内研修の時に進行。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センター、三和地区合同委員会が2ヶ月に1回に行われている会議に参加し、情報交換、学集会等でサービスの質の向上を図るよう努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>自己評価表などを活用したり、ミーティングで意見交換の場を設けている。最良のストレス解消は、仕事にやりがいと喜びや楽しさを感じることに考え、各自との面談などを通じて意見を聞いたり、アドバイスをしたりしている。</p>	<p>有給を利用して、リフレッシュできるように配慮している。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>目標管理シート、OJT計画書の作成により取り組んでいる。現場の勤務実態、努力、実績、悩み等を観察、日誌、各種報告書、直接の面接などで把握するようにしている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に、本人と面談を行い、本人のこれまでの人生、現在の意向、家族の考え等を確認している。又、担当のケアマネジャーとの連携を図るようにしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み書をもとに面談を行い、家族の願い、悩み等を確認している。担当のケアマネジャーとの連携を図るようにしている。又、ホームの介護方針、サービス内容、他の利用者の実状等もよく説明し、十分ご理解頂くよう努める。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が見学、来訪し、何を必要としているか、どういった支援が必要かを見極めている。又、他のサービス事業所の紹介や市の窓口や地域包括支援センターの情報を提供している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に顔を知ってもらうために面会し、家族や相談員との連絡を密に行っている。家族と相談しながら、速やかに対応に努めている。		必要に応じてお試し利用などを実施する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の人格を尊重し、一日のスケジュールの中で気づきの部分を大切にしながら、その人に合った仕事の分担や楽しみや、話題作りに心掛けている。身のまわりのこと等、協力を依頼している。		ICFの視点でとらえていく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	介護サービスはホームと家族との協働作業だと考え、行事の時はもちろん普段から頻りに訪問・面会に来て、意見・感想・願い等を遠慮なく述べてもらう。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	病院の受診の際、家族の方の協力が必要となるため、入居者の体調の変化などは密に連絡を取り、より良い関係が築けるようにしている。家族の中においてこれまでの本人の位置・役割等を詳しく調べ、修復等の必要があれば支援や最小限の介入をする。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人・知人が来訪しやすいように支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルの位置などを考慮し、居心地の良い場を提供できるように努めている。又、職員が仲介に入り話題を提供している。日常の中で助け合う場面作りに心掛けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	広報紙などを活用し、状況に応じ見舞いや相談員に連絡を取るなどしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方、好み、生活習慣、希望等を確認するようにしている。表を作り全職員がそれを見て理解したり、新しく分かったことは更に書き加えたりするようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を居宅、又は施設のケアマネージャーと連絡を取り、フェイスシートなどでこれまでの生活歴、馴染んだ暮らし方、誇り、不安等の確認を行い、経過などの把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が様子観察し、申し送り等でできること、したいこと、できないことを総合的に把握するように努めている。生活リハビリを中心に本人の意思を尊重し個別支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングの中で、介護計画を見直し、細かな点でも話し合い、改善している。家族からの意見は取り入れている。又、主治医や看護師の意見も反映している。		アセスメントをきちんと行い介護計画書を作成する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランをもとに変化に応じて支援を行っているが、十分な計画、評価ができていない。		詳細な介護計画書を作成し、質の高いサービスを提供出来るように実施し評価を行い、今後の支援につなげたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌を記録し、ミーティングの際、ケアプランを元に情報を共有し、実施、評価に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 of 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別ケアを行い、臨機応変にその人らしさを生かすような支援をしている。個人別に散歩・洗濯物干しや取り入れ、カラオケ・折り紙・雑談・手芸など要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を中心に地元の指導的立場の方々の協力、支援を受けている。近くのデイサービス、特養等の行事に参加したり、運動公園へ散歩・見学したりしている。		来年度も、地域の方々に協力していただけるように取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域包括センターが主になり、三和地区合同会議を行って、情報や意見の交換、連携に向けての話し合いをしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして意見や要望をしたり、相談に応じてもらったり等協力してもらっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族等の希望を大切に、了解を得ながらかかりつけ医や協力医と連携をとりながら医療を受けている。特に協力医は隣の建物に常時いて、何かあるとすぐにかけてくれるので、利用者・家族の安心を得ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族との連携のもと、できる方から専門医の診断や治療や指導を受けている。協力医がケアマネージャーの資格を持ち、また認知症専門医の講習を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の看護職より、日常の健康状態管理の支援を受けている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院をされた場合、しばしば面会をし、又、医療機関との情報交換を行いながら早期退院に結びつけるようにしている。又、長期入院とならないように、その都度病院に相談し、理解と協力をお願いしたい。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を家族に説明し、契約を交わし、同意書にて確認している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在行っていない。該当する方が出てきたら、今後取り組む予定である。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人がダメージをうけないように、担当ケアマネージャーと情報交換を行い、家族や関係者との連携のもとで行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内で言葉遣いや接し方、個人記録等、プライバシーに関するものは厳重に対応するように指導を受けている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の訴えを傾聴し、声かけを行い、自己決定ができるように促している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が一日をその人らしく過ごせるよう、その人の好み、やり方、ペース、希望、誇り等を最優先した個別対応をすることによって介護の質を向上させようと努めている。	職員のスキルアップに取り組んでいきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に理容師が訪問し、本人の希望や好みを伺いながら対応している。毎日の化粧・身だしなみ・整容についても個別に本人の要望に沿いながら支援している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく好物を取り入れたメニュー作り調理・工夫を行っている。ゆったりとした雰囲気の中で食事が摂れるように音楽をかけるなどしている。又、後片付けができる利用者に対しては、声かけ促し、職員と一緒にやっている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好しているものを取り入れて行っている。午前中にドリップでコーヒーをたてたり、夕食後にビール等を提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェックを行い、食物繊維を使用したり、日常生活のリズムの中での排泄を支援したり、必要に応じては利用者にあった下剤を服用してもらっている。しかし、安易な下剤の使用は戒め、自然な自力排泄をみざすように努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に一回の入浴施行。一人一人の体調に合わせて、本人の希望や時間を取り入れて支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠パターンの把握に努め、日中の活動を促し、生活リズムを作ることを心掛ける。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	会話により、本人の興味などを聞き出したり、本人が行えるところは本人ができるように声かけ、見守りを行う。役割を果たした充実感や楽しみごとの喜びを感じてもらおう工夫をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望している物品を購入する際、預り金の中から使えるようにしている。できる限り本人に値段や残金を十分に納得してもらい、お金を持って直接買っていただけるように支援する。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人に声かけ、促し、希望にそって散歩、買い物、また苑外の行事を行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事の中に計画を取り入れている。また、利用者の状態や天候に応じて臨機応変に行う柔軟性も大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により、家族に電話をかけた、家族より手紙が届いたりしてコミュニケーションを図れるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できるように雰囲気づくりをしている。また、ご家族は他の利用者の親しい知人としての役割も果たしてもらうようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会が設置しており、身体拘束をしないように取り組んで学習会を行っている。		今後学習会を通し学んでいきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間だけは防犯のため、玄関を施錠する。それ以外は一切鍵をかけないようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が心がけ、プライバシー保護に努め、細心の見守りを行い、安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品、火気、刃物、洗剤など、職員管理のもとに保管、管理を行っている。個人の能力やレベルに応じて、必要な物品を揃えて使用している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、日常の予防とともに、夜間の急変時連絡方法を明記して、6ヶ月ごとに再確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	会議や研修などで講義を受けている。1年1回は救急処置手当の実践訓練を受けている。		今後も会議などを利用し学習していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年に二回行っている。地域の方、民生委員に参加してもらった。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ミーティング等で話し合ったことを家族報告し、情報提供し、日ごろから連絡を密にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ケース記、業務日誌、申し送り等で情報を共有し対応している。必要があれば、かかりつけ医や協力医に相談するようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報を記録し、薬剤の管理場所は職員室にて管理し支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理する際に植物繊維を多用している。日中の活動量を増やすために簡単な体操を行っている。個人別排泄パターンを把握し、習慣的な排泄を促すようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	日常のブラッシング援助や定期的に歯科医の訪問による定期的な受診を行い、必要に応じて治療している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行っている。又、食事形態に応じて支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルに基づき実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行をし、調理用具の消毒等を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花を植え、物干しやベンチを置き家庭的な雰囲気づくりを行っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファを置き、装飾品や手作り品などを飾り、居心地よく過ごせるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、テレビ、椅子の配置などを考え、利用者同士が交流を図れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ調度品や日用品を使用し、本人が居心地よく過ごせるようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、空調機を設置している。又、冷暖房の温度については、ホール居室にシーリングファンと温度計を設置して管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム専用に建てられた施設であるため、設備や工夫がなされている。その中になるべく自力でトイレに行ったり下膳したり、座る位置を選んで座ったりしてもらっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の前やトイレなどに目印をしたりしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小さな畑などがあり、野菜などを植え、時々利用者と共に収穫した物を調理し提供している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

個別の介護を行い、利用者が一日をその人らしく生活できるように、職員が情報を共有し、自立支援に努めています。本人の意思を尊重し、自分でできることは自分で行ってもらう、必要に応じて声けや見守りを行っています。例えば、洗濯物をたたんだり食器の後片付け等職員と一緒にいき、本人が自分の役割を役割として果たす事ができる喜びを感じれるように支援しています。又、散歩の際には、地域の方々と会話をし交流を図り、月に一回の公園の清掃活動には、利用者数名と職員の同行にて、積極的に参加し結びつきを大切にしています。グループホーム三和苑を知っていただくために、開かれた事業所を目指しています。